



HELLOWみどい



病児保育室みどいは、
お子さんが風邪などの病気にかかり、保育園や幼稚園に通えない時に、お預かりする施設です。
新型コロナ感染症は、お子様の陽性者が現在もでています。ご利用希望の保護者の方は、
めざわこどもクリニックホームページ「病児保育室みどい」の受け入れ対応を参照してください。

先月の病児保育室利用者について(2022.9月)

利用者数	病名	認可等	ナーサリー等	その他	キャンセル数
4	急性咽頭炎・クループ性気管支炎・気管支炎	4	0	0	5

新型コロナワクチンについて

今年の秋になり、新たにオミクロン株の変異ウイルス「XBB」が、東京都内での感染報告が確認されています。また、オミクロン株で乳幼児(0~4歳児)の感染で重症例や死亡報告例があり、厚労省は、新たに生後6か月~4歳のお子さんもワクチン接種できるようになりましたのでご紹介します。

接種の対象と使用するワクチン・接種間隔

- **接種の対象** 生後6か月から4歳のお子様を対象です。
- **使用するワクチン** ファイザー社の6か月~4歳用のワクチンを使用します。乳幼児用のワクチンです。
- **接種間隔** 生後6か月から4歳のお子様は、**合計3回接種**して、初回接種が完了します(※)。
3回で1セットですので、早めの接種予約をご検討ください。
(※) 5歳以上の方の初回接種は1・2回目接種の合計2回です。

1回目接種後、通常3週間あけて2回目を受け、2回目接種後、8週間あけて3回目を受けます。通常の間隔を超えた場合には、なるべく速やかに接種してください。



(※) 最短で19日後からの接種が可能です。例の場合、11月22日が11月20日になります。

新型コロナワクチンの効果

Q. 新型コロナワクチンは、どんな効果がありますか？

- A. 生後6か月から4歳の乳幼児に対して、ワクチンの効果や安全性を確かめる研究(臨床試験)が海外の複数の国々で行われました。
- 新型コロナワクチンを受けることで、新型コロナに感染しても**症状が出にくくなる効果(発症予防効果)**がどれくらいあるかについて、約1,100人程度の乳幼児を対象に分析したところ、3回目接種後7日以降の効果は73.2%と報告されています。

出典：審査報告書より

よくあるご質問

Q1. 生後6か月から4歳の子どもへの接種が開始されている国はありますか？

- A. アメリカなどで、生後6か月から4歳の乳幼児への接種が開始されており、日本と同じファイザー社の乳幼児用ワクチンが承認(※)されています。

(※) アメリカでは、日本では現時点では承認されていないモデルナ社の乳幼児用ワクチンも承認され、使用されています。

Q2. 生後6か月から4歳の子どもにも、オミクロン株対応ワクチンは接種できるのでしょうか？

- A. 現時点では、6か月～4歳の子ども用のオミクロン株対応ワクチンは、日本で薬事承認されていないため、接種することはできませんが、従来型のワクチンによる初回接種(3回セットの接種)によって、オミクロン株流行下で70%以上の発症予防効果が確認されているので、ぜひ接種をご検討ください。

Q3. 他のワクチンと同時に接種することは可能ですか？

- A. 新型コロナワクチンは、インフルエンザワクチンとの同時接種が可能です。インフルエンザワクチン以外のワクチンは、新型コロナワクチンと同時に接種できず、2週間以上間隔をあけて接種することとなります。詳しくは、かかりつけの小児科医などにご相談いただきながら、計画的な接種をご検討ください。



Q4. 合計3回の接種の途中で誕生日をむかえ5歳になった場合、5～11歳用のワクチンを打つべきですか？

- A. お子様は、3回の接種の途中で5歳になった場合も、3回目まで同じ乳幼児用ワクチンを接種することになります。

最近の感染症

新型コロナウイルス:微増
手足口病:減少傾向
ウイルス性胃腸炎:流行中
RSウイルス感染症:流行中

